



千葉労働動向

日貨労働の裏切り妥結許すな！ 8・30貨物支部で総決起集会！

八月三〇日、佐倉地区、新小岩地区において「動乗勤改悪を許すな、『中長期計画』一七〇〇人体制攻撃粉碎」動労千葉総決起集会が開催された。

新小岩地区における集会は新小岩支部を先頭に八〇名の組合員が結集し、佐倉地区においては、佐倉支部を先頭に、千葉転・銚子支部の仲間六〇名が結集し、成功をおさめた。

新小岩 第二期の分・民 攻撃「中長 期計画」粉碎

新小岩支部においては一三時より集会が開催された。

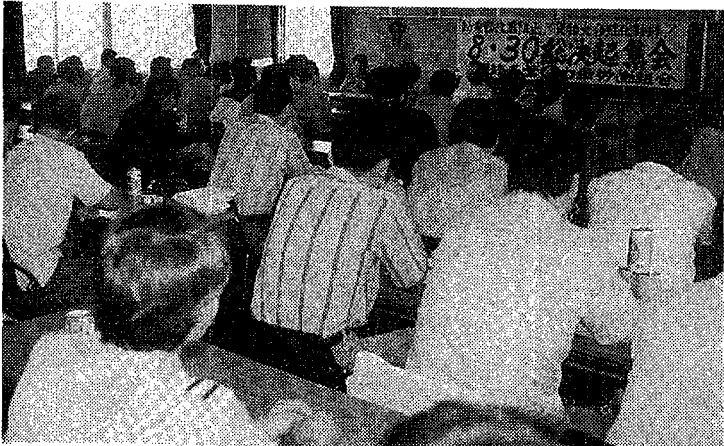
集会は、司会を新小岩支部君塚書記長が担当し進められた。

まず当該支部を代表し、柴崎支部長があいさつにたち、「労基法の改悪を悪用した要員増の時短の強行は、東における動乗勤の待ち合わせ時間のカットにより殺人的な労働強化、長時間拘束をもたらしている。列車設定の少ない貨物会社ではなお一層の長時間拘束、労働強化となることは明らかであり、日貨労働の裏切り妥結を許すことは出来ない。

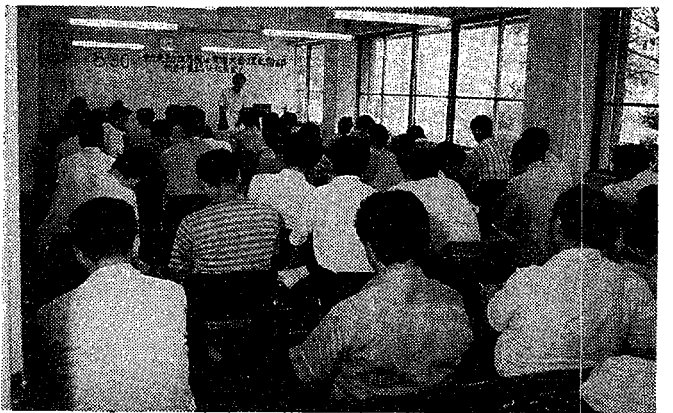
また、貨物会社は、『中長期計画』と称する大合理化計画を明らかにした。今後六年間で、二二〇〇名の要員減を強行するという攻撃であり、貨物労働者四人に一人の首切りを行おうと

いうものだ。内容は、運転基地をはじめ現業機関の全面的な統廃合を行い、貨物輸送体系の本格的な再編成を狙う『第二期の分割・民営化』とも言うべき攻撃である。われわれは、この大合理化攻撃と全力で対決するためにはさらなる団結の強化が求められる。あきらめることなく、最後まで闘う姿勢こそ、今後の会社、現場当局との力関係を維持するためにも絶対必要である。頑張りましょう。」と訴えた。

続いて本部布施副委員長より基調提起、東京東部交流センターより来賓あいさつ、幕張、総武、木更津、館山、勝浦の各支部より決意表明を受け、続いて新小岩支部より飯田乗務員分科会長、地乗勤を代表し川田書記次長、伊藤青年部長の決意表明を受け、最後に柴崎支部長の団結カンパニーを終了した。



新小岩地区集会には80名が結集!!



佐倉地区集会には60名が結集!!

佐倉 日貨労働の裏切り 許さず、12月 イ改阻止へ!!

集会は、司会の佐倉支部・田中書記長があいさつし、「いよいよ動乗勤改悪との攻防の山場を迎えた。日貨労働の裏切りを許さず、全支部のみなさんと闘いぬく。」と力強く宣言し、続いて当該支部を代表し宮内支部長が、「貨物会社は、鉄道部門九三〇〇人を一〇年間の中長期計画で七〇〇〇人まで削減しようとしている。これは単に貨物の問題ではなく、JR一〇万人体制へ向けた突破口である。佐倉

機関区においても、分割・民営化から七年間で二〇人削減されている。中長期計画では、基地統廃合も含め、さらなる大合理化だ。大合理化を許さず闘い抜く。」とあいさつした。

続いて本部田中書記長が、基調報告を行い、「本日は、本来だったらストも辞さず闘い抜かなければならない日である。貨物の『中長期計画』は三年後に迫った分割・民営化移行一〇年の総括評価、『分割・民営化見直し』ということから出てきている問題だ。」と冒頭訴え、貨物合理化をめぐる情勢等と、「当面、定期大会で一二月ダイヤ改をはじめ多くの討議を、九・一八労働者集会への結集を」と提起した。さらに、集会は、結集した組合員から質問をうけた。

質問は、旅客支部から「貨物動乗勤改悪内容について」、「一二月ダイヤ改においてスト体制を組むのか」、貨物支部からは「強制配転者の原職復帰の展望は」などが出され、本部の答弁を受けた。本集会は貨物支部の怒りの中、旅客支部もその怒りを受けとめ、分割・民営化体制の見直しを見据えた闘いの第一歩となった。結集した佐倉支部組合員は、真剣そのものである。日貨労働の裏切りを許さず、一二月ダイヤ改阻止にむけ決起しよう!

たたかう労働運動の
あたらしい潮流めざす

九・一八集会